

平成 25 年度 学内教育 G P プログラム事業経費計画書 (継続型)

事業名称	理系女性の意欲と個性に根ざした複線的教育
取組代表者名 担当者名	最上 善広 菅本 晶夫 塚田 和美 鷹野 景子 曹 基哲 小口 正人 服田 昌之 益田 祐一
事業内容	<p>理数に関して強い学習意欲を持つ学生の意欲・能力をさらに伸ばすことに重点を置いた取組を行うことにより、将来有為な科学技術関係人材を育成することを目的とした文部科学省委託事業「理数学生応援プロジェクト」に採択され平成 21-24 年度に実施された事業の継続。</p> <p>「理数学生応援プロジェクト」の事業では、下記の内容で取組を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 複線的な教育基盤上で学生が主体的に選択できるプログラムの提供 2) 研究意欲を点火する特設授業の実施 3) 高い意欲を持つ学生に特化した取組の実施 4) 新しい入試方法の検討と実施 <p>1) に関しては、複数プログラム選択履修制の開始、卒研シフトの定着によって大学のプログラムとして取り込まれることになるが、2), 3), 4) に関しては、さらに継続して実施をしていくことが望まれる。</p> <p>特に継続が強く望まれる取組は、3) で実施された「アドバンスト・プログラム」で、学生の研究実践力を育成することを目的として、学部学生に卒研以前の段階から実際の研究に携わらせ、さらにその成果を学会・コンテスト等で発表させるという試みである。このプログラムは、1), 2) を土台とした上で行われたため、平成 23 年度から実施されたが、平成 23 年度には 7 件の発表（学会発表 4 件、サイエンスインカレ発表 3 件）と、コンテスト入賞（航空機微小重力実験機会の授与）という成果を上げており、さらにこの参加者の一部は平成 24 年度に行われた日韓 3 女子大学交流シンポジウムで英語によるポスター発表も行い、グローバル的に研究を行うことへの意欲を強めていた。また、このプログラムに 1 年次の段階で参加した学生は、平成 24 年度も続けて参加をしており、これをさらに継続することによって、プログラムの実質的な効果を深く検証することができると思われる。</p> <p>アドバンスト・プログラムでは、理学部教員を対象に学会・コンテストへの参加を視野に入れた取組を募集し、採択されたプログラムごとに参加学生の募集・選考を行う。プログラムの採択・参加学生の最終選考は、研究機構長及び理学部各学科長を含む理数学生強化委員会によって行われ、実施にあたっては、大学院生による TA・チューターを活用する。TA の活用は、大学院生にとっても指導という立場で研究を見つめなおす良い機会となっており、将来的には、学部と大学院の協力態勢で実施を進めていきたいと考えている。</p> <p>また、4) の取組の一環として行われた「科学への誘いセミナー」では、女子高校生に対して、理数に関する興味と、学習意欲の向上促進を目的として、理学部教員の各研究室による研究体験講座を提供した。この取組は、近年減少傾向にある理数を目指す学生の開拓と、さらには大学入学後の学習意欲につなげていくという観点で、長期的に継続することが必要である。</p>